

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

共生社会の中で、「あかるく・ただしく・たくましく」生きる力を育てる。

\* 生徒一人一人の的確な状況把握と将来を見通した多様なニーズに応える指導・支援の実現

1 教育内容のさらなる充実 ～ 一人一人の生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実 ～

2 安心・安全・きれいな学校づくりの推進 ～ 心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送るための環境の整備・改善 ～

3 開かれた学校づくりの推進 ～ 関係機関や地域自治会等との連携強化と情報発信 ～

## 2 中期的目標

## 1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実

(1) 普通課程及び生活課程在籍生徒の現状をふまえた教育課程の編成及び効果的な運用を行い、課題については改善に向けた具体的な取組みを行う。

\* 再編した教育課程について効果検証を行い、課題の迅速な改善を図る。

(2) 生徒が「自分は変わる」と実感できる生徒指導を実践する。

\* 「生徒指導マニュアル」の見直しや指導体制の整備を進めるとともに、生徒指導内容の深化を図る。

(3) 生徒の可能性を引き出し、育てる部活動の充実を図る。

\* 校内の部活動の活性化を図るとともに、活動のようすや成果等の発信に努める。

## 2 キャリア教育・就労支援の充実

(1) 卒業時に進路先未決定者を出さない進路指導を進める。

\* 入学時からの個に応じた丁寧な情報提供、指導支援を展開する。

(2) 「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を推進する。

\* 校外の専門家からの指導助言を受けながら、授業内容、校内実習、職場実習等の充実を図る。

## 3 地域連携の推進

(1) 地域と連携した「環境教育」を実践する。

\* 「ホテル乱舞計画」の協力団体として「カワニナ」の養殖、地場伝統野菜「田辺ダイコン」の栽培、「仁徳陵」周辺の清掃活動等に取り組む。

(2) 堺の歴史や文化に親しむ。

\* 平成 26 年 3 月、史跡に指定された校内の「銭塚古墳」等「百舌鳥古墳群」について知る。

\* 堺出身の茶人「千利休」にちなみ茶道に親しむ。

## 4 将来を創造する人材育成・情報発信

(1) 次世代を担う教員への支援を行う。

\* 支援学校間の情報交換、意見交換ができる場を設定する。

(2) 学校から積極的に情報発信を行う。

\* 児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○ 概況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 月下旬から 11 月上旬に、保護者および教職員を対象に実施した回収率は、保護者 58.5%、教職員 97.5%であった</li> <li>保護者を対象としたアンケート内容 「教育活動に関する項目」と「学校経営に関する項目」の 17 項目</li> <li>教職員を対象としたアンケート内容 「学校教育計画」「特別活動」「進路指導」「交流教育」「自立活動」「健康管理と指導」「校務分掌」「防犯・防災」「職場環境」「保護者・地域」「学校運営」等の 37 項目</li> </ul> <p>○ 結果等</p> <p>保護者・教職員ともに肯定的評価を示している項目も多いが、ここでは課題である（“あまりあてはまらない”“まったくあてはまらない”の割合が多いもの）を記す</p> <p>【保護者】（*＝前回評価よりも改善しているもの）</p> <p>① 小学部・中学部・高等部と連携した教育内容となっている（*）</p> <p>【教職員】（*＝前回評価よりも改善しているもの）</p> <p>① 「道徳教育」の取り組みは進んでいる</p> <p>② 各分掌・委員会の業務内容、量は適切である（*）</p> <p>③ 学校のホームページは時々見ている（*）</p> <p>④ 快適な職場環境の創造をめざした取り組みが行われている。（*）</p> <p>⑤ 職員配置などの教育条件整備は十分行われている（*）</p> <p>○ 今後の対策</p> <p>診断結果を受けて、「課題への対応」を 2 月末までに、まずは各担当部署において検討する。「現状・方針・改善計画の具体案」を記入し、運営委員会で確認、検討を深める。職員会議で説明し、学校組織としての改善策の共通認識を図り、具体的な取組みを進めていく。</p>	<p>第 1 回（6 / 2 7）</p> <p>○ 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新任教員の指導（この学校のカラーに合った方法）が大切</li> <li>今後も放課後デイサービスとの連携を深めてほしい</li> <li>カニューレ抜去時に「ベルデさかい」からの医師の派遣協力を考えてもよい</li> <li>性に関する指導について、系統的に取り組む必要がある</li> </ul> <p>○ 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページで「行事等が古い順になっているが最新のものからの方が見やすい」というご意見をいただき、今年度のブログは、新しい順になっていることを説明した</li> <li>ブログやホームページを見る人が増える工夫をしてほしい</li> </ul> <p>第 2 回（1 2 / 1 2）</p> <p>○ 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域と連携した清掃活動については、自治会としても PR し協力したい</li> <li>肢体不自由児のスポーツ大会への参加も進めてほしい</li> </ul> <p>○ 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としても心構えを持つことが大切</li> <li>医療的ケアについては、小・中・高の連携が重要</li> <li>支援教育の専門性を身につけてほしい</li> <li>保護者対応の心構えを学んでほしい</li> <li>卒業生が挨拶をしてくれてうれしかった。挨拶が基本</li> <li>堺支援でフォローアップ研修を行っているが、事業所でも日中デイサービスの 4 年めまでの職員研修を実施している。新しいことを学ぶだけでなく、自分の仕事を見つめ直す機会にもなっている</li> </ul> <p>第 3 回（2 / 2 7）</p> <p>○ 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高の連携については情報の連携もあるが、教育内容の連携も重要である</li> <li>個別の教育支援計画というツールをどう活用するか。保護者とのつながりを作ることが大切。引き続き保護者との連携を進めてほしい</li> <li>分校は学園との関係づくりが重要</li> </ul>

## 府立堺支援学校（高等部）

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実	<p>(1) 高等部普通課程、生活課程の教育課程の充実を図る。 ア 昨年度改編した普通課程、生活課程の教育課程についての効果検証を行う。</p> <p>(2) 一人一人の生徒に寄り添う生徒指導を実践する。 ア 「生徒指導マニュアル」の活用及び指導体制の整備を進める。 イ 「特別指導」の充実を図る。 ウ 「性に関する指導」の充実を図る。 エ 「情報モラル教育」の充実を図る。</p> <p>(3) 一人一人の生徒の可能性を育てる部活動の充実を図る。 ア 運動系部活動の充実を図る。 イ 文化系部活動の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 普通課程、生活課程それぞれのカリキュラムの改善及び両課程に在籍する生徒の交流活動のあり方について、教育課程検討委員会を中心に検討を進める。</p> <p>(2) ア 昨年度作成・改訂した「生徒指導マニュアル」や校内指導体制の見直し、改善を図る。 イ 「特別指導」の内容について検討し、実践を深める。 ウ 資料、教材の整備を行い、系統的な指導を行う。 エ 情報処理部、児童生徒指導部を中心に、教職員、保護者、生徒各々への理解啓発を図り、学校と家庭が連携したルール作りを行う。</p> <p>(3) ア 今年度から2年間、本校が「大阪支援学校スポーツ大会運営委員会」の事務局となる。障がい者スポーツの意義等を含む広報活動に努めるとともに、校内の部活動の活性化を図る。 イ 活動のようすの発信や成果発表の機会をつくる。</p>	<p>(1) ア 今年度の検討内容、実施内容、課題等を整理し、次年度の取組みの観点を示す。</p> <p>(2) ア 必要に応じた「生徒指導マニュアル」の改訂を行う。 日々の登校時の見守りや昼休みの巡回の実施等、校内の体制を整備する。 イ 今年度の検討内容、実施内容、課題等を整理し、次年度の取組みに活用できるようまとめる。 ウ 「性に関する指導検討委員会」を設置、指導計画を作成し指導を行う。 外部講師による教員研修を行う。 エ 教員研修を行う。 保護者懇談会等を活用し、保護者が情報機器の機能について理解を深める機会をもつ。 生徒に対して情報機器の使用に関するルール等の指導を行う。</p> <p>(3) ア 「大阪支援学校スポーツ大会」のホームページを開設し、大会の情報や結果、参加した生徒の声を発信する。 イ 学校ホームページを通して、活動のようすを発信したり、校内外で成果を発表する。</p>	<p>(1) ア 学校行事(体育大会、学習発表会)や宿泊行事などは、行事ごとに検討を行った。学級学年での活動、教科指導、校務分掌についてはアンケートを実施し、その結果をふまえて次年度の方針を学部で共有できるよう進めている。普通課程、生活課程の在籍者数の推移や国や府の動向も視野に入れながら、個々の生徒の育ちと交流活動について、それぞれの場面で何を目的とするのかを明確にし、教員間のベースとして共通認識を図りながら今後も検討を深めたい。教員の肯定率78% (○) (2) ア 一人一人の生徒の生活背景、将来の姿等もふまえながら、生徒指導の在り方を検討し、各々の生徒の現状に即したものとなるよう「生徒マニュアル」の改訂を行った。昼休みの巡回やルール等は定着している。(○) イ 生徒自身が「今の自分を変えたい」と思える生徒指導をめざし、共有理解を図りながら一人一人の生徒に適した指導方法を話し合い進めてきた。事例が蓄積されている。10月以降、「特別指導」は0件である。(○) ウ 各学年で生徒の状況に応じた「性に関する指導」を行った。指導計画の作成に向けた取り組みのベースとなる「気持ちの学習をベースにこころを育てる関わりと指導」をテーマに、他支援学校指導養護教諭による研修を実施した。教員の参加率、肯定率約85%。精神医療センターの実践見学も行った。系統的な指導計画の次年度完成に向けて引き続き取り組む(△) エ 他支援学校教員の研修、堺少年サポートセンターの研修(教員・保護者・生徒向け)を実施した。教員の参加率、肯定率約85%。校長研修等の関係資料や事案も積極的に発信した。生徒に対しても、情報機器使用に関するルール等を、状況に応じ集団や個々で指導を継続している。(○)</p> <p>(3) ア 本校のHPに「大阪支援学校スポーツ大会」のページを開設し、試合のタイムテーブルや結果、フォトギャラリー、参加者の声などを掲載した。バスケット、陸上、サッカー(フレンドリー、チャンピオン)各大会の様子を視覚的な親しみやすい記録として残すことができた。府内支援学校からの出場者の頑張りを発信し、試合時間の問い合わせにも対応することができ、支援者の拡大にも役立った。(○) イ 職員室前に部活動の掲示板を設置し、校外での活動の日時、場所、参加者等を記載した。生徒の試合や発表の応援に訪れる教員が増え、校内でも部活動のことが話題になることが増えた。また准校長ブログでも、部活動での生徒の活躍を掲載した。保護者の肯定率85% (○)</p>
2 キャリア教育・就労支援の充実	<p>(1) 卒業時に進路先未決定者を出さない進路指導の展開を図る。 ア 生徒一人一人の状況に応じた進路指導の充実を図る。 イ 迅速で適切な情報発信のための体制整備を行う。</p> <p>(2) 「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を推進する。 ア 進路に関する授業内容の充実を図る。 イ 職場実習の充実を図る。 ウ 校外の専門の見地からの指導助言を受ける。</p>	<p>(1) ア 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を活用し、高等部入学段階から生徒、保護者と連携し、希望する進路実現のための個に応じた情報提供、指導支援を行う。 イ 本校の進路担当教員や関係機関による保護者向け進路関係説明会、研修会を実施する。「進路だより」や学校ホームページを通じた情報発信を行う。</p> <p>(2) ア 新たな授業への取組み、教材の作成、校内実習の改善に向けた検討を行う。 イ 配属されたコーディネーターとともに、新たな職場体験実習先、就労先の開拓を行う。 ウ 校外の人材を構成員とする「就労支援ネットワーク会議」を開催する。</p>	<p>(1) ア 生活課程(知的障がい)生徒の就労率を向上する(15%→20%)。 イ 保護者を対象とした進路関係説明会、研修会を年4回程度実施する。進路関係の情報を「進路だより」や学校ホームページ等を通じて保護者へ知らせる。</p> <p>(2) ア 「キャリア教育・就労支援等の充実事業」の取組みをまとめた報告書を作成する。 イ 新規開拓5件以上。 ウ 就労支援ネットワーク会議を年3回程度開催する。</p>	<p>(1) ア 今年度生活課程(知的障がい)生徒の就労率約25%(◎) イ 進路関係説明会、研修会を7回実施し、出席率は約80%であった。福祉、訓練機関等の施設見学会を26回実施し、288名が参加した。高等部3年間の進路指導計画や進路決定までの流れ、福祉制度、事業所一覧等を掲載した「進路のしおり」を今年度保護者に見やすく改訂し配付した。説明会や研修会、見学会等のようすを掲載した「進路だより」を年6回発行し、本校のHPにもアップして情報提供を行った。保護者の肯定率84% (○) (2) ア 年間教育計画の中に本校が作成した「キャリア教育ステージ表」を組み入れ、授業計画を立てた。SST他授業内容の充実、就労先、職場体験先の開拓、教員への啓発、ネットワークの構築等の内容を盛り込んだ報告書を作成。府内支援学校等へ配付予定。また事業に関して、3月の泉北ブロック進路関係者会議で、就労支援コーディネーターが講義し、研究協議を行う予定(○) イ 新規企業開拓18社。6社で今年度、体験実習を行った。1社で新規採用予定。さらに協力企業紹介のプレゼンスライドにして事前に見ることで、生徒の実習先選択の幅が広がった。次年度6月からの堺市役所内での職場体験実習に向けて現在調整中である。堺東高校と合同で企業訪問開拓も行い、情報提供を行った。(◎) ウ 就労支援ネットワーク会議を4回開催。他にもハローワーク、商工会議所、就業・生活支援センター、障害者職業センター、関係企業等を適宜訪問し、ネットワークの強化を図った。(○)</p>

## 府立堺支援学校（高等部）

<p>3 地域との連携</p>	<p>(1) 地域と連携した「環境教育」の実践を進める。 ア 「ホテル乱舞プロジェクト」に関する活動を行う。 イ 地場伝統野菜を育てる。 ウ 地域の清掃活動に参加する。</p> <p>(2) 堺の歴史や文化に親しむ。 ア 堺市の史跡（古墳）について知る。 イ 茶道に親しむ。</p>	<p>(1) ア 堺市公園協会と連携し、「ホテル観賞会」開催に向けた「カワニナ」の養殖や準備を行う。 イ 自治会と連携し、「田辺ダイコン」の栽培を行う。 ウ 地元NPOが主催する「仁徳陵周辺の清掃活動」に参加する。</p> <p>(2) ア 平成26年3月、史跡に指定された学校内にある「銭塚古墳」等「百舌鳥古墳群」について学ぶ。 イ 茶道を体験する。</p>	<p>(1) ア 隣接する堺市都市緑化センターで毎年開催される「ホテル観賞会」のために、養殖した「カワニナ」や製作した灯り取り用の竹細工を提供する。 イ 農業指導員にアドバイスを受けながら育てた「田辺ダイコン」を収穫し、学校給食で活用する。 ウ 各学期に1回程度、清掃活動に参加する。</p> <p>(2) ア 学習の成果を校内に掲示したり、学校ホームページに掲載する。 イ 来校者にお茶を点て、おもてなしを体験する。</p>	<p>(1) ア 6月上旬の8日間、隣接する堺市都市緑化センターで「ホテル観賞会」が開催され、約200匹のホテルが飛翔、毎日約1,000人が鑑賞に訪れた。ホテルの餌となるカワニナや灯り取りの竹細工の行灯を提供し、本校としても地域の活性化に貢献できた。(○) イ 9月中旬に小中高合同で種をまき、農業指導員のアドバイスを受けながら、毎日の草取りや水やり等に励んだ。12月に全校で収穫し、高等部の生徒が水洗いして土を落とし、給食室に100本を配達した。翌日、「堺支援菜飯」「堺支援田辺大根煮物」として全校給食を実施した。「田辺大根」の他「天王寺蕪」「大阪しろな」「泉州黄玉葱」の「なにわの伝統野菜」も育て、成長の過程を准校長ブログで報告した。現在大阪府の「なにわの伝統野菜」の認証を申請中で、今後も堺支援の職業（園芸）の特色として取り組みたい。(○) ウ 学期に1回開催された地元NPOが主催する「仁徳陵の清掃活動」に参加した。地域の方に清掃方法などを教わりながら交流を深めた。堺市が制作している「動画『堺は元気だ!!』」にも登場し、堺市のHPで公開された。(○)</p> <p>(2) ア グループで古墳時代について学んだり、古墳見学を行ったりした。高等部3年生は学習発表会で「銭塚古墳」をモチーフにした約1時間の舞台発表を行った。職業コースの生徒は「ぜにつか商店」の名で校外に出店した。始業式の話や准校長ブログでも取り上げた。生徒は親しみを持っているが、学びを深めるよう工夫したい(△) イ 10月下旬より昼休みに准校長室でお茶会を開き、これまでにのべ187人が茶道体験をした。授業で「茶道」や「千利休」の調べ学習に取り組んだグループもあり、その成果は学習発表会でも展示発表された。学校協議会委員や来客に生徒が点てた「抹茶」を提供し、喜んでいただいた。(○)</p>
<p>4 将来を創造する人材育成・情報発信</p>	<p>(1) 次世代を担う教員への支援を行う。 ア 支援学校間の情報交換、意見交換ができる場をつくる。</p> <p>(2) 学校から積極的に情報を発信し、児童生徒や支援学校への理解・支援の輪を広げる。 ア 学校ホームページの充実を図る。 イ P T A活動の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 泉北地域の支援学校教員の情報交換会を実施する。</p> <p>(2) ア 准校長のブログを開設し、学校のできごとや児童生徒のようすをわかりやすく発信する。 イ 「全国特別支援学校知的障害教育校P T A連合会 全国研究協議会」において、本校のP T A活動の取組みを発表する。</p>	<p>(1) ア 情報交換会を年5回程度開催する。</p> <p>(2) ア 月2回以上、ブログの更新を行う。 イ 「周辺地域（自治会等）と連携したP T A活動」をテーマに発表を行う。</p>	<p>(1) ア 支援学校経験4年めまでの教員を対象に堺支援学校フォローアップ研修を計5回開催した。「スマホ」「生徒指導」「性に関する指導」など現状をふまえたテーマを設定した。ゲストティーチャーに泉北地域の主に4年めまでの教員を迎え、他校の状況を知る機会にもなった。うち2回はニーズがあり全校研修となった。支援教育の基礎的な用語を自分たちのことばで解説する用語集の作成にも取り組んでいる。(○)</p> <p>(2) ア 准校長ブログを開設した。学校経営計画の内容を視覚化し、わかりやすく示すことも心掛けた。月に10件程度の掲載を続け、保護者や教員からも「見ました」と声をかけられる。(○) イ 全知P全国研究協議会および近肢P夏期講習会で、本校で36年続く「福祉盆踊り大会」が自治会の参加協力によって活性化していった経緯などを発表した。「参加者の笑顔が見えてくる」「つながり、ご縁を大切に活動」との講評をいただき、発表後他校の方からも「歴史ある取組み」「地域の方、ボランティアの方が多く集う行事となっている」などたくさんのお声かけをいただいた。発表内容については、11月の学習発表会で展示した。(○)</p>